

# コロナ禍のオンライン国際学生会議プログラム — 成果と課題

大石 敏也

グローバルコミュニケーションセンター非常勤講師（東京都立大学国際センター）

## 【抄録】

本稿では、2021年9月22、29、30日にオンラインで行った国際学生会議について筆者が担当した事前プログラム概要や成果と課題について論じるものである。東京都立大学国際センターではアジアの8大学が加盟する国際学生会議「Global Partnership of Asian Colleges (GPAC)」に2019年に初参加したが、2021年はパンデミックの影響により中止となり、GPAC Onlineとして加盟大学4校と①ネットワーキングイベント、②事前プレゼンテーション、③多国籍グループセッションのオンラインプログラムを実施した。東京都立大学では4月よりプレゼンテーションや英語論文作成の事前研修を行い、コロナ禍において国際交流を実践することができた。学生アンケートからは異文化や他者への気づき・配慮、信頼関係構築に向けての姿勢、言語に限らず伝える力などに効果がみられた。プログラム設計は加盟大学とオンラインで協議を重ねて実施に至ることができたが、各大学のプログラムに対する期待値が異なることによる、共通の教育的評価の作成に困難が生じた。

## 【キーワード】

国際交流、異文化交流、異文化理解、オンラインプログラム、英語教育

### 1. はじめに

2020年3月に急拡大したコロナウイルス感染症による様々な活動の停滞は2021年度も引き続き影響を及ぼしている。海外留学を含めた国際交流事業の多くは中止に追い込まれたが、学びの機会提供を止めてはならないとオンライン留学、COIL型教育など新しい挑戦も生まれて定着しようとしている。このような教育環境の変化に対応し、学生のニーズに応えるためオンラインによる国際交流事業を行った。本稿では2021年度に行った国際交流プログラムについて、実施に至るプロセスと実施内容、英語の論文作成やプレゼンテーション

の事前指導内容について、学生の評価と共にプログラム設計の課題を論じたい。

### 2. GPACの概要

GPACはGlobal Partnership of Asian Collegesの略で、6か国・地域の10大学（日本、韓国、台湾、ベトナム、中国、イスラエル）で実施されているアジア国際学生会議である。その歴史は1991年から2019年まで規模を拡大して29回を迎えた。国を超えた交流の機会を提供することで学生間の相互理解を深め、国際交流を通じてアジア地域の発展に貢献することを目的としている。会議は毎年8

月後半に1週間程開かれ、開催地はパートナー大学間で順番に決められる。2019年は千葉商科大学で開催、2020年、2021年はそれぞれソウル大学、国立台湾政治大学で開かれる予定であったが、コロナパンデミックにより中止となった。例年100名を超える学生が集まり、アジアにおける経済をメインテーマに国際学生会議を行う。使用言語は英語で、会議期間中は1. 学生による研究成果を発表するグループプレゼンテーションセッション、2. その場で編成される多国籍の学生チームによるディスカッション、プレゼンテーション、3. 会議の前後に学生間の交流イベントや市内観光など多数の交流会で構成される。この3つのコアセッションは毎年共通しており、その他のアクティビティ、宿泊、食事等は幹事校の裁量で決定する。

1.の事前プレゼンテーション発表はグループで行う。毎年幹事大学が設定するアジアの政治・経済・社会に関連するテーマについて英語論文を執筆し、その成果をプレゼンテーション10分、質疑応答10分の計20分を会期中に行う。およそ20グループが例年参加するが事前に提出された論文を異なる5つほどのカテゴリーに分け、GPAC当日は、午前中にテーマ別に各教室に分かれ、プレゼンテーションスキルと内容を競い合う。プレゼン後、数名の教員が質疑をしたうえで採点する。各グループから勝ち上がったチームは午後の全体プレゼンテーションセッションに参加し、優勝チームを決定する。

2.の多国籍グループによるディスカッションはアジアや世界に共通する問題が課題として与えられ、問題解決を図り、意見交換や発表を通じた交流を持つことで相互理解を深めることが目的である。事前に与えられた論文資料をもとにディスカッションを重ねるが、学術的な成果よりも大会の共通言語である英語を通じてディスカッションし異文化理解や相互理解に重きを置いている。学

生交流イベントのアクティビティを通じて交流を図り、夕食後などの空き時間を利用して、ディスカッションやプレゼンテーション作成を行う。時には議論が深夜に及ぶこともあり、精神的にも肉体的にも過酷なものであるが、主体性、柔軟性、チームメイトとの調整力、協調力も問われるアクティビティである。

3.の交流イベントは市内観光や観光地、美術館等を訪ね、異文化体験や地域・文化交流を行うものである。幹事校によっては、観光地やルート、食事などは学生によって企画運営されている。プログラム作成、広報なども学生が主体となって行っている。海外参加した2019年のベトナム大会では市内観光、チャンアン複合景観(Trang An Landscape Complex)を訪れた。また、GPAC最後の夜には大学別にダンスやクイズなどのタレントショーが行われた。

### 3. GPAC Online 2021 概要

2021年は引き続きパンデミックの影響を受けたため、4月にはGPACが不開催と決定されたが、千葉商科大学(CUC)、ベトナム国家大学(VNU)、イスラエルのCollege of Management Academic Studies (COMAS)、東京都立大学(TMU)の4校でGPAC Onlineとして9月下旬に行うこととなった。2021年6月より各大学の教職員が月2回程度集い、筆者も参加してオンラインミーティングを重ねることによりプログラムを作成した。プログラムはこれまでのGPACの趣旨に沿う形で、①ネットワークイベント、②事前プレゼンテーション、③多国籍グループセッションのオンラインプログラムを3日間実施した。テーマは各大学が取り組みやすく、普遍性のあるテーマである国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標であるSustainable

Development Goals（持続可能な開発目標）を軸に、学生からのアイデアや想像力を生かせるよう、ローカルな取り組み提案できるように設定した。3日間のプログラムは以下の通りである。

（日本時間）

- ① 9月22日（水）14時～16時  
Networking and Preparation Day
- ② 9月29日（水）15時～17時  
Prepared Presentation Session  
[Theme] SDGs for Asia - Local Perspectives on Global Issues
- ③ 9月30日（木）14時～17時  
Hackathon-style mixed group workshop  
[Theme] Digital transformation

各校参加学生数は次の通り。東京都立大学7名、千葉商科大学10名、ベトナム国家大学17、COMAS5名。なお、②③は一般観覧を可として希望者を募り、東京都立大学を通じて東京都立大学部生11名、院生3名、教職員8名、ほか外部15名（JAXA1名、ベトナム国家大学学部生13名等）が観覧した。

②の事前プレゼンテーションは9チームが参加し、発表されたタイトルは以下の通り。

[Presentation Titles]

- ・ Factors affecting multidimensional poverty: A case study in Hoa Binh Province, Vietnam (VNU1)
- ・ Local workstyle reform using DX and Regional revitalization by MaaS (CUC1)
- ・ Co-Living: The Case of Israel (COMAS1)
- ・ Influence of Sustainable Marketing on Customer Loyalty: A Vietnamese Coffee Market Study (VNU2)

- ・ The Effect of the Dead Sea on the Economy (COMAS2)
- ・ Greening the Textile Industry through Applying Circular Economy Model: International Experiences and Lessons for Vietnam (VNU4)
- ・ The Future of Japan, a Developing Country in Gender Education (CUC2)
- ・ Assessing Vietnam's implementation of 2011-2020 gender equality from economic and political perspectives and goals to 2030 (VNU3)
- ・ The Challenges with Diversity & Inclusion (TMU1)

発表は10分、質疑応答10分で、事前の論文提出は求めずプレゼンテーションのabstractの提出を要件とした。3名の教員が事前に決められたルブリックをもとに審査し、優秀賞3チームを選出、最優秀賞1チームを選出した。

③の多国籍グループセッションではデジタルトランスフォーメーションとSDGsの17のゴールに関連させディスカッションを行った。全34名の学生を7つのグループに編成しプレゼンテーションにはテーマに関する問題点、波及方法、影響について発表することを要件とした。ディスカッションは①でのグループミーティングやプログラム外で各グループでオンラインミーティングを重ね作成した。③においても発表は10分、質疑応答10分で、3名の教員が事前に決められたルブリックをもとに審査し、優秀賞3チームを選出、最優秀賞1チームを選出した。

[Presentation Titles]

- ・ The Digital Transformation in Education: The Case of Free

- ・ Online Course
- ・ Massive Open Online Courses (MOOCs)
- ・ Technology Applications to Protect Wild Animals
- ・ The Impact of ICT Connection on Japan and Vietnam's Inequality
- ・ E-commerce
- ・ Online communication
- ・ E-Learning

#### 4. 東京都立大学国際センターの事前研修

GPAC参加に当たり、国際センターでは課外活動の一つとしてGPACセミナーを週1回実施し、グループワークや課題を通じて、①プレゼンテーション力、②ディスカッション力、③英語のコミュニケーション能力を高めながらGPAC2021のテーマについて理解を深める事前研修を行った。全学部を対象に募集し当初10名の参加者があったが、最終的に7名の大会参加となった。筆者が担当教員として2021年4月中旬～7月上旬に週1回100分を計13回、論文の書き方の学習、グループワークを実施した。(GPAC Onlineの開催が6月に決定したため、4月、5月は主にSDGsの基礎理解と英語のリーディングを行った。)8～9月には学生のニーズにより週1日程度オンラインのミーティングを行った。研修では、英文ライティングやディスカッション、プレゼンテーションについて学び、ポストコロナのニューノーマルとSDGsの企業の取り組みについてリサーチを行った。また、その成果を英語論文10ページ程度にまとめることを事前研修の要件とした。同時に学部や学年など超えて英語と日本語の両言語で議論を行い、他者に働きかける力、チームで考える力など、どのように学生自身やグループメンバーの能力を発揮していくかを模索することを意識し指導を行った。新型

コロナ感染症の感染状況によっては夏季休暇期間中に短期集中の講座・合宿を設けることも検討したが、最終的に感染症の影響が大会まで継続し合宿は見送られた。

事前研修には研修の成果とモチベーションの維持を目的にTOEIC Speaking & Writing IPテストプログラム前後に行った。また、幸いなことに、これまでと異なる取り組みとして東京都立大学国際センターの日本語短期オンラインプログラムの一部に参加することができ、6月29日には日本語短期プログラムに参加した協定校の学生に対し日本文化プレゼンテーションを実践的に行うことができた。

学期中に行った事前研修のテーマは以下の通り。

- |       |   |
|-------|---|
| 4月6日  | オリエンテーション   |
| 4月13日 | テーマ別リーディング① SDGsの成り立ち、および特徴を理解する。                 |
| 4月20日 | テーマ別リーディング② SDGsの取り組み動向とその後企業がSDGsを進めるための視点を理解する。 |
| 4月27日 | TOEIC 語学テスト                                       |
| 5月11日 | テーマ別リーディング③ SDGsの世界に見られる大きな変化                     |
| 5月18日 | テーマ別リーディング④ 日本企業・自治体が取り組んでいるSDGs                  |
| 5月25日 | 論文の書き方①   |
| 6月1日  | 論文の書き方②   |
| 6月8日  | 論文の書き方③   |
| 6月15日 | グループワーク   |
| 6月22日 | グループワーク   |
| 6月29日 | オンライン交流会（日本語短期プログラムの一部に参加）                        |
| 7月6日  | グループワーク   |
| 7月13日 | プレゼンリハーサル   |
| 7月20日 | プレゼンリハーサル   |

## 5. 学生アンケートの結果

上記のGPAC Onlineプログラム、事前研修を終了して参加学生に対しアンケートを実施した。事前研修の目的である①プレゼンテーション力、②ディスカッション力、③英語のコミュニケーション能力について、およびGPAC Onlineへの総括、プレゼンテーション発表やグループワークについての自己評価による成果の検証を行った。本稿には特に成果が上がった設問を中心に掲載する。

### Q1. 参加した事前研修・GPAC Online 2021について総括をしてください。

- ・研修では論文の書き方などを修得し、GPACでは台湾には行けなかったものの、諸外国の学生と交流をする良い機会になったと感じています。
- ・ベトナムとイスラエルの学生と一緒にSDGsのローカルな観点から問題点を導き出した所は各国の問題意識を再確認でき、とても有意義であった
- ・達成感
- ・総じて自分のグループでの立ち回りやディスカッション、英語でのコミュニケーションについての理解を深めることができた。事前研修では、今まで読むだけだった文章を作成するにあたり、構造や文体について知識を得ることができた。
- ・たくさん意見を聞くことができるプログラム。パワポの作り方やデータの集め方など、プレゼンの作り方がかなり違って、新しい発見ができる
- ・事前研修では「相手に伝える」ことを体感、GPAC Onlineでは「チームで物事を成し遂げる」ことを経験できたと感じている。ま

た、このような順序で今回のプロジェクトが進んでいったことはとても有意義なものであると考える。GPAC Onlineでは複雑なことを異国の人々がディスカッションするのに、相手に伝えることが上手にできないことはディスアドバンテージになると私は思った。しかし、事前研修ではその「相手に伝える」ことを英語と日本語にかかわらずに練習することができ、GPAC Onlineではそれを役立たせることができた。

- ・最初は海外に行ける機会だったと思い応募しましたが、コロナ禍で結局リモートの形になってしまいました。けれども、いろいろな人と意見交換が出来ましたし、英語の能力も活かすことができましたので、大変良い経験だったと思います。

「言語に限らず伝える力」が身に付いたという意見が見受けられる。事前研修では学部、学年を超えた交流を通じて、オンラインプログラムでは異なる他者や外国の学生との交流を通じて、異なる意見や他者を理解し、伝え方について試行錯誤しながらコミュニケーションを図っていたことがうかがえる。

### Q2. 事前研修のグループワークで苦勞したこと、困難だった事がありましたか？また、どのようにそれを克服しましたか？

- ・グループワークでは自身はSDGsの知識が少ないのでアイデア出しが苦勞しましたがメンバーのサポートなどで協力できました
- ・文化的に時間にルーズな学生がいた影響でスケジュール通りに進行できなかった
- ・意見をまとめ上げ一つのテーマに絞ること。それぞれの意見を聞いて、ピックアップす

る形で一つのテーマに絞った。

- ・ディスカッションで意見が出ないときの対処法に苦労しました。その時は、なるべく自分からたとえや発案をし、他の人も言い出しやすい雰囲気になるように努めました。
- ・発表の時間が短いのので、短くプレゼンを作るのに苦労しました。大事なことだけを伝えるようにプレゼンを作り替えました。
- ・事前研修のグループワークでは、今まで経験したことがないコミュニケーション術や気にしていなかった文章の論理性を体感することができた。それらは、始め少し複雑に見えたが落ち着いて考えれば自分の意見を伝えられることの楽しさがわかってきたので、困難というよりは新しいことができるようになる楽しさの方が大きかった。
- ・ディスカッションの時、自分の意見をきちんと伝えられなかった場合が多かったという気がします。それを克服するため、グループワークの前、いつも資料と自分の考えをある程度収集・整理しました。

チームワークでは自らが働きかけるよう、担当教員が促していたため、例えば、コミュニケーションが停滞した時に実践した様子がかがわれる。また、研修中にはアイデアを伝えるための知識の不足を認識した学生がそれをメンバーに告白したり、そのことを受けて次に取り組まなければならない事項をまとめる作業、資料集めなど改善を図るようなチームワークが見られた。

**Q3. 事前研修のグループワークについて感じたことを自由に記述してください。**

- ・他の学部のメンバーたちと交流できてとても良かった。

- ・他学部の学生たちと意見交流できたため、問題を柔軟に捉えられるとても良い機会でした
- ・他学部他学年の学生の話聞くことができて楽しかった。留学生に発表する際は、グループのメンバーに上級生の方々がおかげもあり、それなりスムーズに進みました。
- ・事前研修でももちろん学んだことがあるが、大学に入学して初めてのイベントで他学年の人たちとお話をするチャンスがあったことがまず、楽しかった。
- ・最初は、みんなのスケジュールがバラバラで、きちんと会って話し合うことが難しくてなかなか進まないという気がしましたが、最終的にはいい成果が出せたと思います。

全学部の学生が参加できる国際課・国際センター主幹のプログラムとしては他学部学年との交流や海外学生との協同や学習など、様々な枠を超えた交流が達成できた。コロナ禍において、オンライン授業により同学部の学生やのコミュニケーションもままならない状況や、課外活動が大幅に制限されている中、学生同士の交流機会を生み出すことができた。

**Q4. 大学別のグループプレゼンテーションについて自己評価してください。(5段階評価、最低1、最高5)**

- ・平均4.14

**Q5. ミックスグループによるグループワーク・プレゼンテーションについて自己評価してください。(5段階評価、最低1、最高5)**

- ・平均4

Q4、Q5のプレゼンテーションの自己評価では、

事前に用意したグループプレゼンより、ミックスグループプレゼンの方が相対的に自己評価が低い傾向にあったが、差はわずかである。

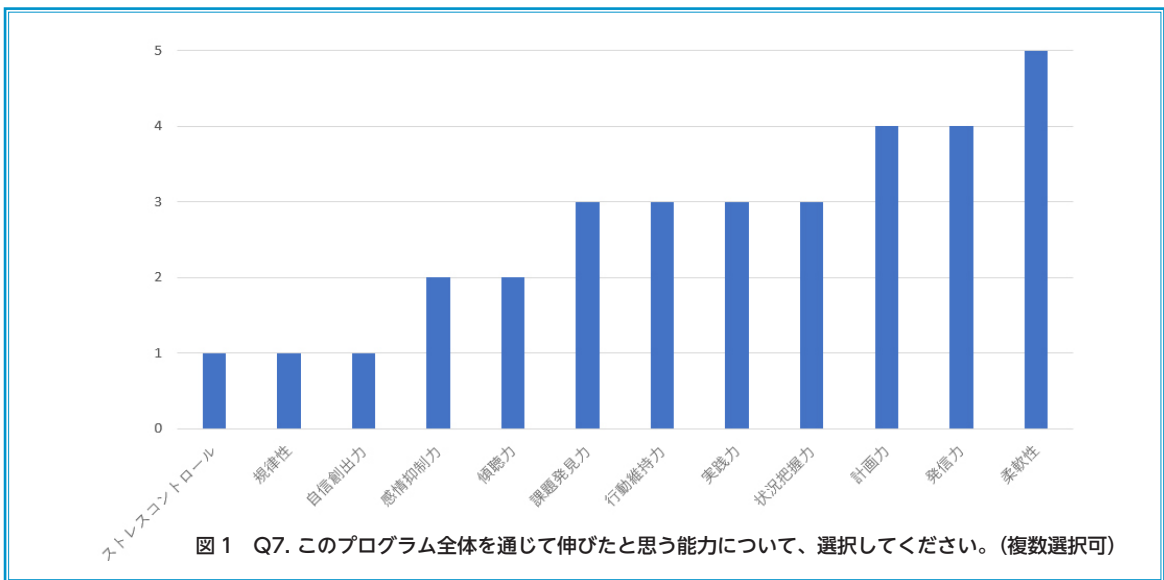
**Q6. このプログラム参加前後で進路や目標に対しての考え方や気持ちの変化があれば教えてください。変化がない場合、この経験を今後どのように生かしたいですか？**

- ・英語運用能力を高めてビジネスなどの場で英語を活用したい。
- ・英語でコミュニケーションを取ることの壁を感じなくなり、なんとか英語で表現するスキルがより身についたと感じる
- ・就職先はあまり英語を使用しないところだが、それでも英語を勉強しなければならないと思った。
- ・英語を活用したコミュニケーションの楽しさやグループでプレゼンをすることの大変さを学びました。この経験を活かし、今後のグループでの作業での立ち回りや計画、国際的な活動などに役立てていきたいです。

- ・育児休暇について調べることがあったので、育児休暇の平均的な状態を知ることができました。
- ・これから生かせそうなことといえば、onlineで国際的な交流をすることに抵抗がなくなったことであると考える。つまり、今後は大学生のうちにより多くの分野や国の学生と交流をもち、自分の研究に繋げることができればいいという風になるようになった。研究というのは理系文系関係があまりない、むしろそれが融合することが面白いと思うようにもなった。
- ・ダイバーシティの重要性をより一層深く理解することができました。最近執筆している論文にもそれに関する内容を書き込みたいと思います。

**Q7. このプログラム全体を通じて伸びたと思う能力について、選択してください。(複数選択可)**

事前事後で行ったTOEIC Speaking & Writing IPでは大幅な語学力の向上などの成果は確認でき



なかったが、長期的な言語学習への意識、異文化への態度・意識の変化は見込める（見込みがある）内容であった。またQ7. ではプログラム中に向上した能力について7人中5人が柔軟性が養われたと挙げている。（図1）

## 6. プログラムの課題

パンデミックがもたらした国際交流への課題は学生の安全を最優先しプログラムを設計すること、交流を中断させないことある。本プログラムへの課題は、海外派遣の可否、学生応募、研修の実施、研修内容、プログラムの作成、代替プログラム実施までの参加大学同士の意思統一に及んだ。諸々の課題は大学としての方針に左右されることも多く、特に海外派遣の可否においては慎重に大学執行部で議論され方針が決定される。その結果を受けてプログラム終了までの道筋を描くことは非常に短期間で決定しなければならず、またGPAC加盟大学との足並みをそろえることは容易ではない。

オンラインで海外関係校との調整はインターネットを介して頻繁に行うことが可能になったが、時差や学年歴が異なることによる打ち合わせ時間の確保、プログラム開催日の設定で難航した。特にプログラムやプレゼンテーション評価を詳細に決定する過程において意見交換と調整が長引いた。なぜならプログラムに対する教育的評価が各大学により異なるためである。学生は同じプログラムに参加するが、参加学生の属性、参加要件、教育的評価、教育支援は様々である。東京都立大学では国際交流の課外活動として全学部を対象に募集を行い学年や英語能力を問うことなく募集を行った。また、英語論文作成を要件としたが単位付与は行っていないため成績評価は行わなわず、国際交流活動への参加証明書を発行する。他

大学ではゼミやその年のGPACのテーマに関連した授業の単位で参加しているところも有り、学生のバックグラウンドや支援は様々である。事前研修の有無、設定されたテーマへの専門的教育支援、単位の付与の有無、アウトカムへの評価基準、テーマへの基礎的理解、専門性、事務的支援、財政支援が異なり参加学生のモチベーション、目的も異なるからである。そのような状況の中で統一的な教育評価を設定することには数多くの議論が必要だろう。例年においても、幹事校が設定した枠組みにおいて行われる国際交流イベントに参加するが、上記に挙げた通り、各大学の参加目的は異なる。国際交流に重心を傾ければ、テーマはより一般教養的な内容や普遍的なテーマに絞らざるを得ず、専門性の低下が懸念される。

## 7. おわりに

コロナ禍に行われた国際交流事業であったためか、学生たちから高い評価で得ることができた。幸いにして事前準備したプレゼンテーションは優秀プレゼンテーションにノミネートされた。また、学生にはコロナ感染症の対応のため日程調整や合宿の中止など状況の変化にも辛抱強く対応してもらい、彼らのモチベーションとチームワークに敬意を表したい。事前研修では英語で相手に伝える表現方法や論じ方意見の根拠を得るための資料集めを学び、プログラムにて実戦することができた。また、多くの関係者、各大学の担当者の協力により無事にプログラムを終了することができた。プログラムを設計するに当たり、勇気のある大きな決断と柔軟な変化への対応が求められた。各大学との調整は細部に行けば行くほど合意形成は困難であった。スケジュール、特にプレゼンテーション評価の内容や方法においては教育的視点が異なるからである。しかし、オンラインではあったが



初対面の学生や他者（異文化）への働きかけには挑戦することが必要であり、自らの英語能力に合わせ実践と失敗を経験し積み重ねて方法を探っていくものだ。そうして、自らの気づきを認識し次の機会に応用するものである。パンデミックによりあたらしい学びの機会や異文化交流を提供できたことは幸いである。このプログラムで知り合い、共に学び合った異国の友人同士が、実際に会うことが将来かなうならば、交流で得た感動は感動は大きなものになるだろう。

## Online International Student Conference Program under COVID-19 pandemic: Outcomes and Difficulties

Toshiya OISHI

### **【abstract】**

This article discusses the seminar for an online international student conference that was conducted in September, 2021 its results, and difficulties. The 2021 Global Partnership of Asian Colleges (GPAC), an international student conference with eight member universities in Asia, was cancelled due to the Covid-19 pandemic. The GPAC Online was held in collaboration with four member universities as an event to (1) network, (2) prepare presentations, and (3) participate in multinational group presentation sessions. Tokyo Metropolitan University provided a seminar for presentation preparation and English writing, and was able to facilitate international exchange during the Covid-19 pandemic. The students' reflection on showed positive effects of the event on awareness and consideration of different cultures, relationship building attitudes, and ability to communicate despite the language barriers. Although the program was conducted through online discussions with the member universities, difficulties arose in creating a common educational evaluation due to the different expectations of each university from the program.

### **【key words】**

International exchange, cross-cultural exchange, cross-cultural understanding, online program, English education